



領 収 書

平成30年2月16日

飯田 昌弘 議員

金額  
(消費税込) 1,430円

第2回佐野市議会議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。  
(平成29年11月16日、17日、18日報告会開催)

佐野市議会報告会運営委員長

鈴木 靖宏

後援会の皆様あけましておめでとうございます。  
今年が皆様にとりましてより良き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成30年から始まる「第2次佐野市総合計画基本構想」で佐野市の将来像が示されました。

「水と緑にあふれる北関東のどまん中 支え合い、人と地域が輝く交流拠点都市」です。実現に向けて市民が一体となって行動したいものです。

次世代に誇りをもってつないでいく佐野市をつくるため、時代にあった地域を作り、皆さんが安心して暮らせるよう全力投球致します。

皆様のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

(建設常任委員会委員、都市計画審議会委員)



## 平成29年第5回佐野市議会定例会（飯田昌弘一般質問）

### 一. 糖尿病と人工透析について

40歳以上の4人に1人と急増している糖尿病。全国の年間医療費は1.2兆円とされています。皆さん糖尿病の原因を知っていますか？

毎日食べる食事には糖がたっぷり含まれています。「糖」は小腸から吸収されて血液の中に入ります。インスリンは「糖」をエネルギーに変換します。インスリンは血液の中の糖をエネルギーに変えて血糖値を下げる唯一のホルモンです。インスリンがなければ血糖値を下げることはできません。

糖尿病の原因は、インスリンが足りない、又は効かない、の2つです。糖が急に増えると、血管の内側から活性酸素が大量に発生します。糖が血液の中で渋滞し、活性酸素が血管を破壊します。酸素と栄養が運ばれなくなり、合併症が発生します。

糖尿病とは「血糖値が高い状態が続く」病気です。空腹時血糖が126mg/dl以上か、ヘモグロビンA1cが6.5%以上の方が該当します。それ自体は痛くもかゆくもありません。恐ろしいのは合併症です。血糖値が高い状態が続くと、体のいたるところで血管が詰まったり破れたりすることで、合併症が起こるのです。細い血管が壊れると、3つの合併症が発生します。

①糖尿病腎症 腎臓が機能しなくなり、人工透析が必要になります。透析を受けているのは現在32万人、年間5千人のペースで増加中です。

②糖尿病網膜症 年間3千人の糖尿病患者が視力を失っています。

③糖尿病神経障害 年間2万本もの足が切断されています。

糖尿病患者は心筋梗塞、脳梗塞になるリスクが極めて高いとされています。

Q佐野市の糖尿病患者数と糖尿病予備群の人数をお伺いいたします。

A新里年市健康医療部長答弁 平成28年調査から糖尿病有病者数は約9,900人、予備群は約9,800人と推計されます。

Q佐野市の合併症の患者数をお伺いいたします。

A国民健康保険・後期高齢者医療の状況では糖尿病腎症490人、糖尿病性網膜症

697人、糖尿病性神経障害213人でございます。

**Q**人工透析をしている患者数をお伺いいたします。

**A**国民健康保険83人、後期高齢者医療162人でございます。

**Q**人工透析患者の生存率についてお伺いいたします。

**A**糖尿病腎症が原因の患者は合併症があること、導入時の年齢が高いことから、一般的には5年生存率が約50%、10年生存率が約30%とされています。

**Q**糖尿病は生活習慣の悪化によるものと考えられます。糖尿病は一度なってしまうと治りません。予備群の段階なら間に合います。正確な知識を持ち、生活習慣を見直すことで予防したいものです。佐野市の健康診断受診率と糖尿病のチェックはどのように実施しているのかお伺いいたします。

**A**平成28年度特定健康診査受診率21.6%、後期高齢者医療受診率17.0%です。特定健康診査結果から糖尿病要精密検査の方113名に医療機関への紹介状を送付し、受診勧奨を行いました。未受診の63名に、電話や通知で再勧奨を行い、平成28年度中に精密検査を受診した方は、36名でございました。

**Q**糖尿病予備群や糖尿病患者に直接働きかける施策と予算はいかがですか。

**A**国民健康保険で、平成30年度の新規事業、糖尿病重症化予防事業を検討しています。レセプトデータから、放置すると人工透析に移行する可能性の高い被保険者を抽出、同意者に対し重症化予防の取り組みを保健師、かかりつけ医、専門医との連携で行う事業です。委託方式で、事業費700万円を見込んでいます。

**Q**一人暮らしの老人や引きこもりがちな人たちを参加したくなる気持ちにさせるマイレージ活動を導入すべきと考えますがいかがでしょうか。

**A**現在、健康マイレージの導入に向けて検討を進めています。少ない経費で大きな効果を生む事業とするため、今後さらに検討を進めてまいります。

**Q**住み慣れた場所でずっと暮らしたい、皆さんの共通の願いではないでしょうか。年を重ねれば何かしら暮らしにくさを生じ、手助けが必要となることが増えます。地域包括ケアシステムの構築でどのようなまちづくりを進めていくのかお伺いいたします。

**A**第7期介護保険事業計画では、地域包括ケアシステムの構築に取り組みますが、医療や介護の切れ目のない体制を築くとともに、介護予防や生活支援を目的とした地域の支え合いの体制を充実させていくことが大切と考えています。住民主体の介護予防運動としてのハツラツ元気体操、住民ボランティアによる通いの場等の活動を市内全域に拡げ、地域全体で支え合うことのできるような地域づくりを、地域住民とともに推進していきたいと考えております。

## 二. 少子化解消と女性活躍社会を目指す取り組みについて

**Q**幼児人口が増えている堀米地区、堀米保育園整備計画では堀米、吉水の保育園が合併して堀米と同規模の施設を開所する予定でした。大幅に遅れています。進行状況と今後の計画、完成予定をお伺いいたします。

**A**齋川一彦こども福祉部長答弁 堀米保育園につきましては、単独で平成30年度に、民間移管先となる事業者を公募・選定し、31年度において施設整備を行い、32年度開園を目指し、計画を策定しているところでございます。

## 三. 安心安全なまちづくりとしての幹線道路の県要望について

